

ブログにおける書き手の意図とモダリティ表現

Writers' Intentions and Modality Expressions in Weblog Articles

松村 真宏*¹

Naohiro Matsumura

三浦 麻子*²

Asako Miura

*¹大阪大学大学院経済学研究科

Graduate School of Economics, Osaka University

*²神戸学院大学人文学部

Faculty of Humanities and Sciences, Kobe Gakuin University

In this paper, we investigate how writers of web diaries or weblogs use modality expressions differently to express their intentions on the articles. The articles are collected from 54 writers and labeled as one of Memorandum, Report, Diary, or Journal. Since each type corresponds to a writer's intention, we count the number of frequency of modality expressions from the articles of each type to prove the relationships between writers' intentions and modality expressions.

1. はじめに

ウェブ日記・ウェブログは、内容（事実中心／心情中心）と指向性（自分に向けて書く／読者に向けて書く）によって大きく4タイプ（備忘録型、日誌型、日記型、公開日記型）に分類できることが知られている [Kawaura 98, 山下 04a]。本稿では、アンケート調査によってウェブ日記・ウェブログを4タイプに分類し、それぞれの文中に含まれるモダリティ表現の統計を取ることににより、ウェブ日記・ウェブログの書き手の意図がモダリティ表現にどのように反映されているのかを調べる。

2. ウェブ日記・ウェブログ意識調査

本稿では、山下・三浦の行った「はてなダイアリー」*¹ 利用者に対するウェブ日記・ウェブログ意識調査を利用する（調査の詳細については [三浦 04] を参照されたい）。質問項目はウェブ日記・ウェブログの執筆状況、執筆動機や効用、パーソナリティ・個人特性、ツールの利用経験、回答者の基本属性など多岐に渡っている。山下・三浦らは調査結果からウェブ日記・ウェブログの継続意向に関する因果モデルの構築に取り組んでいる [山下 04a, 山下 04b, Miura 05] が、本稿ではウェブ日記・ウェブログのコンテンツ分析に焦点を当てる。ウェブ日記・ウェブログの分類は以下の質問項目 Q2-12 に沿って行う。

Q2-12 あなたのウェブ日記・ウェブログは以下の4つのうちどれに分類できると考えられますか。次の中からもっとも近いものを選んでください。

A1: 自分に向けて書き、事実をそのまま書く（備忘録型）

A2: 他者に向けて書き、事実をそのまま書く（日誌型）

A3: 自分に向けて書き、自分の心情を書く（日記型）

A4: 他者に向けて書き、自分の心情を書く（公開日記型）

有効な回答が得られた1,142人のうち、ウェブ日記・ウェブログの内容分析の許可を得られた54人分のウェブ日記・ウェブログ3か月分を分析に用いた。分析に用いたウェブ日記・ウェブログのデータを表1に示す。

分類別に見ていくと、一人当たりのテキストサイズの大きさが備忘録型、日誌型、日記型、公開日記型の順に大きくなつ

*¹ <http://d.hatena.ne.jp/>

ている。これより、自分よりも他者に向けて書く、もしくは事実よりも心情を書く人のほうがたくさん文章を書き、その傾向は心情のほうがより強いことが分かる。また、1文あたりのサイズは日記型だけが小さく、自分に向けて心情を書く場合には簡潔な文になっていることが分かる。他者との関わりや事実を意識してウェブ日記・ウェブログを書いている人ほど、より分かりやすく、もしくは詳しく書こうという意識が働くために一文が長くなるのだと考えられる。

3. モダリティ表現

日本語の文の意味構造は、客観的な事柄を表す「命題」と、聞き手に対する話し手の主観的な判断や態度を表す「モダリティ」から成ると考えられている [益岡 91]。モダリティは、その性質の違いからいくつかのタイプに分類することができる。益岡によるモダリティの9分類を以下に示す。

伝達態度のモダリティ 聞き手に対する話し手の態度を表す。特定の聞き手に対して発話される「対話文」にのみ現れる。「～よ」「～ね」等の形式が用いられる。

ていねいさのモダリティ 聞き手に対する話し手の態度を表す。ただし、伝達態度のモダリティと異なり、不特定多数の人々を対象とした文章にも用いることができる。「～です」「～ます」等の形式が用いられる。

表現類型のモダリティ 聞き手の行動を促したり、話し手の感情を表すなど、表現・伝達に関わる様々な機能を表す。表現類型は全部で演述型、情意表出型、訴え型、疑問型、感嘆型の5つある。

真偽判断のモダリティ 対象となる事柄の真偽に関する判断を表す。断定の場合は無標形、断定保留・未定の場合は「～らしい」「～だろう」「～ようだ」「～か」等の形式が用いられる。

価値判断のモダリティ 対象となる事柄に対して話し手が望む判断を表す。「～べきだ」「～ことだ」「～ものだ」「～なければならぬ」「～ほうがよい」等の形式が用いられる。

説明のモダリティ 当該の記述がある事柄に対する説明として用いられることを表す。「～のだ」「～のです」「～わけだ」「～わけです」等の形式が用いられる。

表 1: 分析に用いたウェブ日記・ウェブログ (54人 × 3か月分) .

	備忘録型 (自分に向けて 事実を書く)	日誌型 (他者に向けて 事実を書く)	日記型 (自分に向けて 心情を書く)	公開日記型 (他者に向けて 心情を書く)
人数	7	15	12	20
文の数	5518	20462	24078	33980
テキストサイズ (KB)	230139	787742	677316	1297419
1人あたりのテキストサイズ (KB)	32877	52516	56443	64870
1文あたりのテキストサイズ (KB)	42	39	28	38

表 2: 計測したモダリティ表現 .

	モダリティ表現 (基本形)
伝達態度のモダリティ	～よ, ～ね
ていねいさのモダリティ	～です, ～ます
真偽判断のモダリティ	～らしい, ～だろう, ～ようだ, ～か
価値判断のモダリティ	～べきだ, ～ことだ, ～ものだ, ～なければならない, ～ほうがよい
説明のモダリティ	～のだ, ～のです, ～わけだ, ～わけです
テンスのモダリティ	～た
みとめかたのモダリティ	～ない

テンスのモダリティ 当該の記述を時間の流れの中に位置づける働きをする。現在または未来の場合は無標形、過去の場合は「～た」等の形式が用いられる。

みとめかたのモダリティ 対象となる事柄に対する肯定・否定の判断を表すモダリティ。肯定の場合は形式がないが、否定の場合は「～ない」等の形式が用いられる。

取り立てのモダリティ 命題間の範列的な関係を表す「も」「は」「ばかり」「でも」「くらい」等の形式が用いられる。

書き手の意図は、態度、判断、説明、時制に関するモダリティとして表出する。そこで本稿では、趣旨から外れる取り立てのモダリティと計算機での処理が難しい表現類型のモダリティを除いた7分類のモダリティ表現を計測することにする。

4. 書き手の意図とモダリティ表現

2. において4分類したウェブ日記・ウェブログのコンテンツをJUMAN [黒橋 03] を用いて形態素解析し、活用を基本形に戻した文末表現(句点の直前の語もしくは句)と品詞との組み合わせからモダリティ表現の7分類の出現率を計測した。本実験で計測したモダリティ表現を表2, 計測した7分類のモダリティ表現の出現率を表3に示す。モダリティ表現ごとの特徴を以下にまとめる。

- 伝達態度のモダリティ表現は、日記型、公開日記型において相対的によく用いられている。2. の質問項目 Q2-12 から分かるように日記型と公開日記型に共通している質問は「自分の心情を書く」であり、伝達態度のモダリティは心情を書くときに用いられていることが分かる。
- ていねいさのモダリティ表現は日誌型、公開日記型、備忘録型、日記型の順で多く用いられている。つまり、ていねいさのモダリティ表現は他者に向けて書くときに用いられていることが分かる。

- 真偽判断のモダリティは相対的に日誌型、備忘録型、公開日記型、日記型の順で多く用いられている。つまり、事実について述べるときに真偽判断のモダリティが使われていることが分かる。

- 価値判断のモダリティはあまり用いられておらず、この結果からはタイプ別の傾向を述べることはできない。

- 説明のモダリティは日記型、つまり「自分に向けて自分の心情を書く」場合に相対的によく用いられていることが分かる。

- テンスのモダリティ(ここでは過去時制の文末表現のみ)は相対的に備忘録型に多く用いられ、日記型には少ない。このことから、自分に向けて事実を書き留めるときには過去形が使われていることが分かる。

- みとめかたのモダリティ(ここでは否定形の文末表現のみ)は相対的に日記型に多く用いられ、公開日記型には少ない。このことから、自分に向けて心情を表すときには否定形が使われていることが分かる。

以上の結果を整理すると表4のようになる。これら一連の分析から、ウェブ日記・ウェブログの書き手は誰に向かってどのような内容を書くかによって巧みにモダリティ表現を使い分けていることが明らかになった。

5. 議論

山下らは20個の日記(各10日分)に用いられている文体が「である調」(説明のモダリティ)か「ですます調」(ていねいさのモダリティ)かを人手で分析したが、明確な傾向は見出せなかった[山下 00]。これは、よく用いられているかどうかの印象を評定者に求めたために、大まかな傾向しか捉えられなかったためだと考えられる。評定者による分析では話題内容の判別など微妙な判断を要する場合には非常に有効である。しかし、評定者にかかる負荷が非常に大きいために、分析でき

表 3: ウェブ日記・ウェブログの 4 分類とモダリティ表現の出現率 .

	備忘録型 (自分に向けて 事実を書く)	日誌型 (他者に向けて 事実を書く)	日記型 (自分に向けて 心情を書く)	公開日記型 (他者に向けて 心情を書く)
伝達態度のモダリティ	0.0217	0.0189	0.0712	0.0424
ていねいさのモダリティ	0.0920	0.1306	0.0599	0.1082
真偽判断のモダリティ	0.0120	0.0156	0.0099	0.0110
価値判断のモダリティ	0.0009	0.0015	0.0008	0.0007
説明のモダリティ	0.0230	0.0277	0.0334	0.0248
テンスのモダリティ	0.2887	0.2417	0.2064	0.2451
みとめかたのモダリティ	0.0292	0.0302	0.0375	0.0232

表 4: ウェブ日記・ウェブログの 4 分類に特徴的なモダリティ表現 .

	モダリティの種類
備忘録型	真偽判断のモダリティ, ていねいさのモダリティ, テンスのモダリティ
日誌型	ていねいさのモダリティ
日記型	伝達態度のモダリティ, 説明のモダリティ, みとめかたのモダリティ
公開日記型	伝達態度のモダリティ, ていねいさのモダリティ

るデータ数や判断項目はどうしても制限されてしまう。一方、計算機で分析すると微妙な内容の判断は難しいが、モダリティ表現などの定型的なパターンに限定すると大量のテキストを比較的正しく処理できる。本稿では 54 人 × 3ヶ月分のウェブ日記・ウェブログに用いられる 7 種類のモダリティを数上げることができたために、従来の調査では見出せなかった傾向まで見出せたのだと考えられる。

しかし、今回計測したモダリティ表現は表 2 に示す 19 種類のみであり、決して十分ではない。例えば、書き手の意図に深く関わっている表現類型のモダリティは今回計測していない。また、複数のモダリティ表現の組み合わせも捉えられていない。したがって、今回の分析で違いが見えなかったからといって即座に関係がないという結論を下すことはできない。今後は、より詳細にモダリティ表現を定義し、大規模なデータからより正確な傾向を捉えることに取り組んでいく予定である。

また、質問 Q2-12 は択一項目であり、ウェブ日記・ウェブログを書き手ごとに備忘録型、日誌型、日記型、公開日記型のどれか一つに分類して分析を行ったが、実際にはウェブ日記・ウェブログの内容は様々な範囲に及ぶことも多く、ただ一つに分類することには無理がある。ウェブ日記・ウェブログがカテゴリ別に分類されている場合には、カテゴリごとに分類を求め必要があるだろう。

6. まとめ

本稿ではウェブ日記・ウェブログの書き手が、どのような読者を想定しているのか、どのような内容を書くのかによってモダリティ表現の使い方を工夫していることを明らかにした。

ウェブ日記・ウェブログはインターネット上で公開されている以上、程度の差はあれども書き手は常に何らかの読者を想定しているはずである。言葉使いひとつで書き手の印象は形成され、他者との関係性に大きな影響を及ぼすことを考えると、書き手の意図とモダリティ表現についての知見を共有することは、情報化社会に必要なテラシーとなるであろう。

謝辞

本研究を進めるにあたり、東京大学大学院情報理工学系研究科の岡本雅史氏、東京大学生産技術研究所の鍛冶伸裕氏、東京大学医学部附属病院の荒牧英治氏との議論が大変有意義でした。記して感謝いたします。

参考文献

- [Kawaura 98] Kawaura, Y., Kawakami, Y., and Yamashita, K.: Keeping a diary in cyberspace, Japanese Psychological Research, 40, 234–245 (1998)
- [黒橋 03] 黒橋禎夫, 河原大輔: 日本語形態素解析システム JUMAN version 4.0 マニュアル (2003)
- [益岡 91] 益岡隆志: モダリティの文法, くろしお出版 (1991)
- [三浦 04] 三浦麻子, 山下清美: 人はなぜウェブ日記・ウェブログを書き続けるのか (1), 日本社会心理学会第 45 回大会論文集, 676–677 (2004)
- [Miura 05] Asako Miura: Can Weblogs Cause the Emergence of Social intelligence?, Social Intelligence Design (2005)
- [山下 00] 山下清美, 川浦康至, 川上善郎: WEB 日記の内容と文体の特徴, CmCC 研究会第 3 回シンポジウム発表資料 (2000)
- [山下 04a] 山下清美: ウェブログの心理学, 人工知能学会 第 6 回セマンティックウェブとオントロジー研究会資料 SIG-SWO-A401-03 (2004)
- [山下 04b] 山下清美, 三浦麻子: 人はなぜウェブ日記・ウェブログを書き続けるのか (2), 日本社会心理学会第 45 回大会論文集, 694–695 (2004)
- [山下 05] 山下清美, 川浦康至, 川上善郎, 三浦麻子: ウェブログの心理学, NTT 出版 (2005)